

# MediaNet

No.28 | 2021

慶應義塾大学メディアセンター  
Keio University Media Center

## 特集

### コロナ時代に変化する大学図書館： COVID-19とメディアセンターの1年

コロナ禍における閲覧サービス：波乱に富んだ日々の記録

オンラインを活用した利用支援サービス

スタッフ座談会：COVID-19とメディアセンターの1年

購入資料に見るCOVID-19の影響

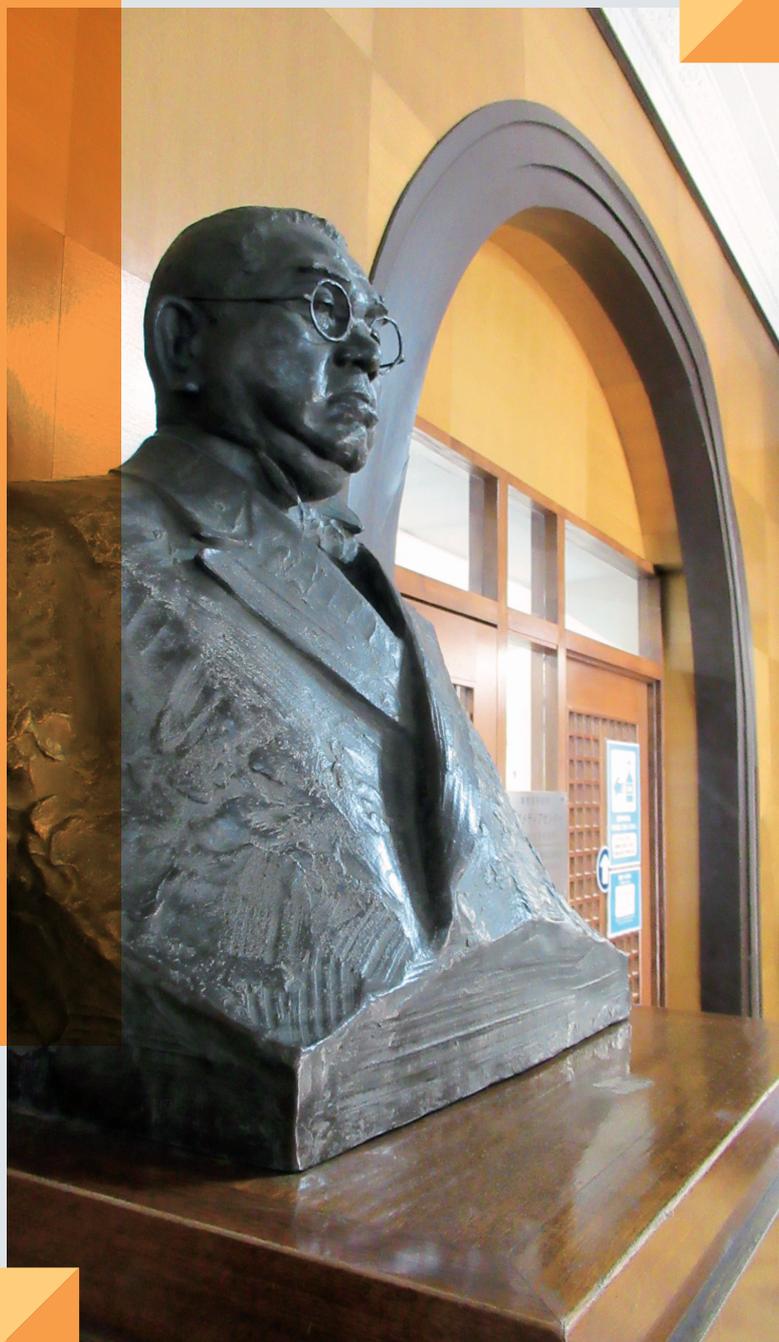
コロナ禍における電子資料の提供と課題

コロナ禍のシステム担当の対応の記録と

ポストコロナ時代に向けた課題

コロナ禍でのスタッフの勤務体制

図書館におけるバーチャルツアーについて  
—各キャンパスメディアセンターの取り組み—



表紙の写真：初代医学部長 北里柴三郎博士胸像（北里記念医学図書館入口）

信濃町メディアセンター（北里記念医学図書館）の扉の前には、来館者を歓迎するかのように初代医学部長の北里柴三郎博士の胸像が置かれている。2024年に新千円札の顔となる北里博士は、ドイツ語で雷を意味する「ドンネル」先生と呼ばれ、破傷風の予防法や治療法を確立し、ペスト菌を発見するなど、国内外の感染症研究に大きく貢献した。

今からおよそ100年前、多くの人々を感染症の恐怖から救った北里博士の意志は現在も脈々と受け継がれている。慶應義塾大学病院および医学部では「慶應ドンネルプロジェクト」と呼ばれるCOVID-19に対する研究が進んでおり、コロナ禍であっても日々新たな研究成果が生まれている。メディアセンターのスタッフとして医学・ライフサイエンス分野の良質な情報サービスを提供し、慶應医学を支えていきたい。

（信濃町メディアセンター 遠藤泉）